



# 人形遊び

10ヶ月間の完全犯罪

紫峯蓮舞



4月20日

---

ちょうど1ヶ月前だ。タレントの鳴瀬めぐみがテレビの前から姿を消したのは。まったく・・・その時の報道と言ったらなかったよ。街頭の大型モニターに映し出される彼女の姿を観ながら、まるで家族でも死んだかのように人目もはばからず号泣するファンの姿や、BBSに好き勝手な憶測を並べ立てるネット住民を特集してばかり。本当に無駄な労力を使ってる。

————マジで、死んだとか思ってるのかな。

4月26日

---

ほとんど毎日のように、彼女の話がワイドショーで取り上げられている。去年、二十歳で『大学生アイドル』としてデビューし、そのあどけなさや大人っぽさを兼ね備えたルックスと天真爛漫（を装った）キャラで人気が出たらしい。その彼女が突然の失踪。

『依然行方不明』『交際相手と逃避行』『金銭トラブルが原因か』

新聞には、そんな見出しが躍っていた。コレだから記者ってヤツは信用できない。こんな事なら、まだ“熱心なファンたち”なんてカワイイもんだな。

——魔法の箱の中の虚像に踊らされて、あれだけ涙を流せるんだから。

5月12日

---

・・・そういえば、俺に『友だち』が出来たのもあの日だったな。なーんか、面白いヤツなんだ。もうメッチャクチャ無口で、会ってもあんまり嬉しそうに顔しないし。そのくせ、俺がいなきゃ何も出来なかったり。

————ま、そこが憎めないところなんだけどね。

5月14日

---

あ、そうそうウチの大学にも鳴瀬めぐみのファンは結構いるんだけど。中でも筋金入りのマニアがいてね・・・それが数少ない『オレノトモダチ』だって知った時の衝撃（笑）。で、そいつもあの日以来見かけてない。とりあえず励ますつもりで電話したら、

「“めぐっちい” が帰ってこなかったら、俺も帰らねえし・・・」

って。何言ってるか分かんないから、今は忘れろって言ったの。したら

「だな、飛び降りてスッキリすっか・・・」

コレって・・・“そういう事” だよな？あ、俺は・・・いちおう止めたよ？『バカな事すんな』って。でも、もうアイツ電話切ってたけど。ただでさえ、ついこの間も大学で盗難があったばっかなのに

—————こんなんじゃ・・・また、何かありそうだな。

5月30日

---

久しぶりにテレビをつけたら、えらい騒ぎになってた。後追い自殺が増えてるとか何とか。『仲間・・・出来たじゃん』って思わず口走っちゃったけど、コイツら殺したの“メディア”だから。『口は災いの元』って、こういうの言うんだろ？

—————なんで見てもいねーのに『鳴瀬めぐみ自殺!!』とか言っちゃうかねー。

6月16日

---

ちょっと気になって鳴瀬めぐみの事、検索してみたんだ。そしたら出るわ出るわ・・・公式のページやブログがどうにかトップに出た後の『非公式ファンサイト』の数々。“某ちゃんねる”でも『間違っただ情報に惑わされるな!』『みんなでめぐちいを捜しに行こう!!』とあって、ご丁寧に捜索隊の結成写真まで載っけてあったりする。

—————なあ、こんなの見てどう思う？

6月17日

---

実は俺、『友だち』とはあの日から一緒に暮らしてたりする。『住むトコがないんなら、ウチに来れば』って。アパートの家賃だってバカになんないんだし・・・とか言って“助けてやるつもり”で半ば強引に(笑)。たしかに、ここだって広いってわけじゃないけど、二人くらいなら割と余裕はある。でも、こんなの他の連中には知られたくないな。んなさ

『“お持ち帰り”したオンナと同棲してる!』

とかヘンな噂立てられても困るし。そんな、男と女がふたりっきり一つ屋根の下で暮らしてたって実際何もありゃしないし。

—————本当に、ただのルームメイトなんだって。



7月1日

---

その“オンナトモダチ”を家に連れ込んだのは春だったから、この時期に着るには結構暑いじゃない？そこで俺は夏向きの服をプレゼントしたんだけど・・・“無口だから”ありがとうの一つもなし。嫌なのかどうか、顔見ただけじゃ分かんない。ただ彼女に着せてあげるだけ。

——俺って、案外センスいいかも。

7月5日

---

前にも書いたか？・・・俺がいなきゃ“ナニモデキナイ”って話。彼女は一日中椅子に座ったまんまで、食事でさえも一人じゃ無理だから、毎日、朝昼晩俺がスプーンで口へ運ぶんだ。しかもほんの少し口を開けるだけ、ほとんど噛めないから

いっつも『おかゆ』みたいな

それじゃあ栄養が偏ると思って、赤ちゃんの離乳食っていうか・・・ペースト状のベビーフードってヤツをあげたり。

こぼしても、自分じゃ口の周りを拭えない。ましてや体なんて・・・ウチには風呂がなかったから、たまに俺が蒸しタオルで拭いてやるくらいしかできない。エロいって思うのは勝手だけど、トイレで用足すのだって・・・。

とにかく彼女は、俺がいなきゃダメなんだ。日に日に、俺の中でも彼女の存在が大きくなってきてる。まあ、無味乾燥な大学生活に比べりゃ、この“ふたり暮らし”は充実してる。彼女を独りにして、大学になんか行けないよ。

————だってこれは『自分で蒔いた種』なんだから。

7月16日

---

今朝、彼女の様子が少しおかしかった。いつもより寝息が荒く大きな気はしたんだけど、俺が起こそうとした時には、もう充血した目を潤ませてこっちを見てた。椅子に座らせるのに抱きかかえてやっとその『異変』に気づいた。

熱、出してたんだ。

もたれかかるその体は火照り、無表情な顔もこの時ばかりはさすがに辛そうだった。

いつも一緒にいるけど、今日は買い物にも行かないで付きっきり。ちょうど買い置きしてた薬があって良かった。今、彼女は俺の横で静かに眠ってる。だいぶ楽になったのかな。

——俺も、もう寝よう。

7月20日

---

ようやく熱も落ち着いたみたいで安心した。どうやら夏風邪みたいだった。朝メシを食べさせた後、俺は今回の件でずっと休んでいたバイトに出かけた。ただでさえ仕送りもらっても足りないのに“ふたり暮らし”なんてしてたら（笑）。

「ちょっと、花に水やってきていいスか」

この言葉が、皮肉にもまた俺を印象づけた。・・・昼休みだ。だってさ、水やんないと枯れちゃうじゃん。

———花って、デリケートだから。

7月30日

---

今さらこんな事言うのもアレだけど、実は俺も鳴瀬めぐみの件で雑誌記者の取材を受けたんだよな。家に行くとか言ってたけど、色々マズかったから近くの喫茶店で。何か

『高校時代、同級生で仲が良かった』

って、そんな理由で。いったい誰からそんな話を聞いたんだか・・・確かに俺はアイツとデキてたよ。でも、大学も別々になっちまったし？いつの間にか電話にも出なくなっちまって・・・それっきりさ。だから言ってやった。

「・・・そんな話、鵜呑みにするな」

ってね。

———今は、おたくらに付き合ってるほどヒマじゃねーよ。

8月6日

---

最近は、ニュースでもほとんど鳴瀬の話はしなくなった。考えてみれば、初めてアイツをテレビで見た時はビックリしたよ。ついこの間まで一般人だと思ってたヤツが、濃い化粧してまつ毛に頭にエクステつけて愛嬌を振り撒く姿は・・・俺から言わせれば惨めでしかなかった。高校の時のアイツは、絶対にこんな事望んでなかったんだ。もっと、ちゃんとした夢を持ってた。

ジャーナリストになって、世界中の“叫べない人たち”の『声』になる

って。ズルズル成り行きで入った世界が、鳴瀬にとって幸福な場所であるはずがないんだよ！

———ホラ見ろ、お前はもうすぐ・・・忘れられちゃうんだぞ？



8月14日

---

“オレノトモダチ”・・・何も出来ないし何も話せない彼女と暮らし始めてから、もう5ヶ月。俺は、ずっと一線を越えないで来たつもりだった。彼女は、何の文句もなけりゃ、抵抗もしないんだから、好き勝手にやる事も出来ただけ

俺には、そんな気はなかった。

ただ、こうして一緒に暮らしているだけで、そこに『繋がり』を感じてるだけで嬉しかった。このまま、笑わなくたって会話がなかったって構いやしない。俺は、ずっと二人で生きていきたいかった。

————彼女を、愛してしまったから。

8月15日

---

何とかして、コミュニケーションを図る事が出来ないか・・・まだ、俺は諦められなかった。だから、毎朝、ノートパソコンにメモを表示させたままにして彼女のそばに置いておいた。手をキーボードにかざしてね。可能性はゼロに等しかったかもしれない。でも、きっといつか何か『声』が入ってる事を信じて・・・俺は、待ち続けたんだ。

8月22日

---

あれから一週間。やっぱり画面には、まだ何の文字もなかった。彼女の視線すら、ディスプレイとはまったく見当違いのほうを向いちまってるし、これ以上やっても仕方ないんじゃないんじゃないかって・・・ふとそんな気持ちにもなりかけた。俺だって、これまで何もしなかったわけじゃない。暇さえあれば彼女の手を持って、文字を打つ練習をさせたりしてたよ。『おはよう』、『いってらっしゃい』、『おかえり』、『おやすみ』・・・同じ言葉を何回も何回も。

——まるで、幼い子供に教えるみたいに。



8月31日

---

ついに、この日が。画面に『言葉』が表示されていたんだ。

す ち た せ さ は ん い

明らかに少ない文字。床に投げ出された腕を見ると、前みたいに滑ったまま押さえ続けてたんじゃないらしい。初めての『意思表示』、

「何て書いたの」

って聞いても、“いつもみたく” 知らんぷり。

——— . . . お前らしいな。

9月13日

---

今日は、いつもよりタバコが美味かった。何でかって・・・

アイツが『おかえり』って

『打ったんだろ!』『何か言えよ!』肩つかんでブンブン揺らして。俺・・・酔ってたんだ。でも、いつだって俺の、どんな気持ちも静寂に変えちまうコイツ見てると

涙が止まらなかった。俺の目の前には、その、腹立つくらい“すました顔”があった。だから・・・

なんで黙ってたんだよ?俺は、思い出させたくて・・・思い出したくて

———思いっきり、チューしてやった。



9月14日

---

いやー、怖いね酒って。俺、何やってんだろ。昨日の日記見てビックリだよ。まあ、喜びのあまり、勢いに任せて・・・っていうか、流れでやっちゃまったって事で許してもらえるとありがたいんだけど。今は、画面の何げない言葉が全部怒ってるような気がして落ち着かなかった。かと言って、『昨日の事、怒ってる？』って聞く勇気もなし。

9月21日

---

ちょっとした事でも、彼女との会話が成立するには1分かそこら掛かってしまう。でも、それが余計にいじらしく、愛おしく感じたり。ゆっくり、ゆっくり・・・一文字ずつ心の中身が言葉になって浮かび上がってくるのは、ただ音として消えていくより印象深い気がするんだよな。たとえそれが

きょうはあめ

窓を流れる滴をぼんやり眺めながら感じた、他愛もない事だったとしても。

9月24日

---

『風呂、入りたいだろ?』いつものようにタオルで体を拭きながら、聞いたんだ。やっぱり何も言わなかったけど、それが、俺には余計に辛かった。フッと、

コイツも年頃のオンナなんだ

そう思ったら、何かもうまともに見れなくなって。慌てて服を着せた。

「ゴメンな」

そのまま買い物に出かけた俺を待っていたのは・・・

いつもありがとう

——もう戻れないのかな、俺たち。

10月2日

---

なるべくいっぱい会話するようにしてたら、だいぶスムーズにキャッチボール出来るようにはなってきた。もう、トイレの心配もない。だって、漏らしそうになったら

といとといとといとといとといとといとといとといとといと

『れ』まで間に合わないくらい必死になるからね。

———可愛いヤツだな。

10月4日

---

告白した。・・・っても、『好き』とか『愛してる』みたいな普遍的でカッコつけた台詞より

このまま二人で、ずっと一緒に生きていこう

って、そんな具体的（笑）な言葉が口をついていた。『嫌だったら、0。OKしてくれるなら、1・・・押し  
て』俺には画面の文字がすべてだった。彼女の気持ちが正確に反映されるように、押し間違いがあったら困  
るからあえて離れた位置のキーを押してもらおう事にしたんだ。したら・・・わざわざ『かな』キーを押して

いいよ

って打ってくれてさ。

10月5日

---

告白したからって、何が変わるわけでもない。だけど・・・何かが違う気がしたんだ。

彼女と俺の『心の距離』が近づいた？

・・・って、勝手に思っても仕方ないか。でも、何となくウキウキしちゃうってのかな。いっそのままで、ホントにずっとズルズル行ってもいいかもしれない。一日一日、今日が楽しけりゃ・・・それでいいや。

————鳴瀬より・・・お前のほうが、素直で好きだよ。



10月15日

---

『ケンカするほど仲がいい』・・・って、みんなホントにそうなのかな？今日は何だか消えちまいたい気分だ。彼女にさ、すっげーカワイソウな事しちまったんだ。

おでかけしたい

って言ったのを、『無理だよ、楽しくないって』・・・俺が、突っぱねて。そりゃ、今までずっと“ひきこもり”だったし？今日みたいに天気の良い日は、風に当たりたい気持ちも分かるよ。でも・・・

「それだけじゃん、別に何が出来るわけでもないのに・・・面白いかな？」

色んな“面倒くさい事”が俺に、そう言わせたんだな。ビクッとなったまま手を止めて、もう何も話さなくなった彼女を見て俺は

殺しちまったような罪悪感に襲われた。

・・・ああ、そうさ。きっと、彼女にしてみれば自分の存在を否定されるのと同じだったろうよ。俺は彼女を抱き締めて何度も謝ったけど、その間ずっと俺の肩は彼女の涙で濡れていた。

———言葉なんか、てんで無力だよな。

10月16日

---

『じゃ、ドライブ行こっか』昨日のお詫びに、ついさっきまで出かけてた。街の鼓動がやむ頃・・・つまり夜に、他の誰にも会わない場所へ。そこは珍しくたくさんの星がよく見える寂れた公園だった。俺は彼女を抱えて外へ。瞳に映る星というか・・・

綺麗だったな。

もちろん、それだけじゃないけど（笑）。今日は、喜んでくれたらろうか。

——いつの間にか、寝ちゃってたけどね。

10月20日

---

俺は彼女の気持ちを、画面からしか知る事が出来ない。コイツの事は何もかも知ってるって言いたいけど、本心だけはひょっとすると分からないのかもしれない。画面に映らない彼女の奥底、表に出さないその真意を知るにはどうすればいい？俺は、あの日から今日まで・・・自分のしでかしちまった事に、自信が持てなくなってきていた。

————ホントのしあわせって、何なんだ。

10月26日

---

かねてから噂されていた鳴瀬めぐみのセカンドシングルが、混乱の中とうとう発売された。ファンは当然ながら狂喜乱舞・・・だが、失踪の三日前にレコーディングされたとあって、その一部の間では『もう、これっぎりじゃないか』なんて言われているらしい。BBSを覗いたら案の定、それに反論する書き込み・・・ってかケンカ？それをカッコつけてなだめようとする“同じ穴のムジナたち”も。

・・・それにしても、コイツらの行動の速さには脱帽するよ。『さびしくなったら、ココをクリック！』流れてくるのは、“元カノ”の歌声。俺が聞いたこともないような、寒気がするほどの猫なで声で嬉しそうに歌ってやがるんだ。俺には、そんな風にしか聞こえない。

—————本当の鳴瀬めぐみを知ってる俺には。

11月4日

---

今までは、俺にとっちゃどーでもいい日だった。だいたい誕生日なんてのは、この世に生を受けたその一日だけに意味があるんじゃないか？歳が幾つかなんて、関係ない。

ガキでもしっかりしたヤツはいるし、歳食ってるだけのバカもいるじゃん。

・・・ま、こんなフザけた事言ってるヤツばっかだったらケーキ屋が儲からねえか。

でも、とりあえず今年は俺も貢献してやった。だって、彼女と一緒に食べたかったしケーキ。自分の誕生日にかこつけて？

「あ、お前・・・誕生日いつだっけ」

おぼえてない

—————そっか。じゃ、この際だからもう一緒にお祝いしちゃおう。

11月13日

---

しかし、鳴瀬の人気はスゲーな……。本人がいねえのに、ストラップとか写真集がバカ売れなんだった。しかもさらにレアなのが……

コールド・トイズ社製の、超リアルな6分の1フィギュア

ますます鳴瀬が哀れだった。ただでさえ“事務所の金儲けの道具”……商品と同じ扱いを受けながら、本当に『商品化』されちゃったんだから。

———ああ、“いない”から“売れる”んだ。逆に。



11月26日

---

今日バイトから帰ったら、彼女がこんな事言ってた。

わたしはだれ

って。名前も・・・やっぱり自分の歳も分からないんだと。

「だから、俺が助けてあげたんじゃないか」

何も心配するな。今が楽しかったら、それでいいんじゃないの。俺は一生お前を守っていくよ。

「・・・大丈夫、信じててくれよ」

頭を撫でたら泣き出した。

———コレって、嬉し涙・・・だよな？

1 2月3日

---

あの日から、ずっと彼女がどこことなく暗い感じがする。いつも同じ無表情なのに元気がないように見えてしまう。何ていうか・・・明らかに今までとは様子が違うんだよ！俺だって、モヤモヤした気持ちが取れなくて、理由もなく焦ってる。

余計な事、考えんなよ！名前くらい忘れてたってどうって事ないだろ!?!・・・そんなの、お前が決めたわけじゃないんだし。

————お前のアイデンティティーは、お前自身なんだから。

12月4日

---

俺が焦ってたって仕方ないんだ。だから、昨日ここに書いた言葉を彼女に伝えてみた。でも、画面には何も映らない。何も打とうとはしなかった。

俺には一言もないんだと！

「なんで黙ってるんだよ・・・何とか言えよ」

俺には責める気なんてなかった。・・・ひょっとして、彼女は怯えてるのか？

「頼むよ・・・俺だって必死なんだよ!!」

口の利けないお前のココロを知るのに。お前の本当の幸せを見つけるのに。

————お前を、取り戻したいから。

12月7日

---

今度は、俺のほうがおかしくなっちまいそうだ。毎日毎日、まるで人形（フィギュア）に向かって話してるみたいな気分だ。せっかくパソコンで会話できるようになったって

“声”

が聞こえなきゃ同じだろ？ますます彼女の目からは生気が感じられなくなっていた。こんなんじゃ・・・どうすりゃいい？コイツにとって、このまま生きていくとしたら

何が希望なんだ。

俺の自業自得だって事は分かってる。分かってるけど

———やっぱり俺のやった事は、間違いだったのか？

12月16日

---

今日は、アイツが久々に喋ってくれたよ。

かえして

「・・・何を」

わたしをかえして

・・・なのにさー、こんな事言われりゃイラつくの分かるかな。一体どこに？誰に返せばいいって言うんだ。こんなになっちまったお前を拾ってくれる“ヤサシイヒト”なんかいるわけねーだろーが!!

「自分じゃ何も出来ねえくせに、エラそうな事言ってんじゃねえよ!!」

・・・って思わず怒鳴っちまった俺に、アイツの頬を伝う一筋の涙だけがまだ、しぶとく抵抗を続けていたんだ。

12月22日

---

あのまま、六日が過ぎた。俺たちの間には何となくギクシャク、ピリピリした空気が漂っていた。アイツも、ずっとご機嫌ナナメ。何も話そうとしないし、何聞いたってダンマリ。おまけにメシもろくに食わなかったから、無理やり口に押し込んだら・・・むせて吐き出すし。だって、ずっとボロボロ泣いてんだもん。ティッシュで拭いてやるのもバカらしくなっちまうくらいだった。

————ホントに人形だったら、さぞ楽だったろうな。

12月24日

---

巷じゃあ、クリスマスだ何だって浮かれてるけど、俺たちはそれどこじゃねーっつーの。

ああ、あの記者に全部ぶっちゃけても面白かったかもしんねーな。

アイツ・・・鳴瀬とは、連絡がつかねえだけで俺はまだ“終わった”なんて思っちゃいないからね？『あー、大学で勉強頑張ってたなー』『忙しいのかなー』って俺は・・・恋人を思うあまりの優しさで！

・・・そっとしといてやっただけなんだよ。そしたら

あ、前に鳴瀬がテレビに出ててビビったっつったよね？・・・いや、ビビったっつーか。何かこう、アイツがあんまり楽しそうにゲラゲラ笑ってんの見たら・・・この、胸のあたりが異常に熱くなってさ、次の瞬間だ。ホントに一瞬だけこんな気持ちになったんだ。

—————いつか、殺してやる・・・って。

12月25日

---

じんぐるべえ～、じんぐるべえ～・・・今年のクリスマスは、久しぶりにオンナと一緒に。

な～んの面白味もないフィギュアみたいな女と。

アイツが俺の前から消えて二年か。いつのまにやら、俺だけの鳴瀬めぐみが“みんなのめぐちい”になっちまったわけだ。だから、アイツがファンどもに媚を売ってるから

俺は・・・悪魔に魂を売って

ってか、大学の研究室に忍び込んで『あるモノ』を手に入れてやったのさ。神経に効くキッツーイヤツをな？



12月26日

---

何か、アイツ・・・変な事言いだしやがったんだ。何？

あんたのことしてる

だの

ぜんぶおもいだした

だの。極めつけは、『おねがいころさないで』・・・バカヤローが。今までの、な？こんな事俺だっけ言いたかねーけどよ。今まで俺がさんざん面倒見てやった、その“恩”を忘れてよくそんな事が言えるよな！

————お前・・・あのままだったら、おっ死んじまってるんだぜ？

12月27日

---

「一緒に暮らすって言ったよな」

いやだ

「ドライブ、行ったじゃん」

知らないわからない

・・・この女（アマ）、昔のキラキラした目をしてなかったんだ。今となっちゃ、身も心もアイツに支配されちまったみてえだ。腐りきった、カネと欲にまみれた薄汚い世界にどっぷり浸かっちゃまったアイツ

———鳴瀬めぐみ、にな。

12月28日

---

めぐみを連れてくるのは、さすがに骨が折れたよ。何たって超売れっ子のアイドルだからね。でも、『関係者』になっちまえば簡単だった。ホントに偶然、俺の前のバイト先の本屋で『握手&サイン会』をやるって話が。この時ばかりは、神様も俺が正しいって。味方してくれたんだ！・・・ホント、そう思ったよ。

裏に車を停めて、『失礼しまーす』楽屋として使ってた事務所に潜入成功。人ひとりスッポリ収まるくらいデッカイ木箱を台車に載せて。

「・・・どうも」

「・・・えっ、俺の事覚えてない？」

その時にひと言、俺の名前を言ってくれりゃあ・・・こんな事思いとどまったかもしれないな。首、傾げやがるから・・・注射して、木箱に放り込んで（笑）。マネージャーがトイレに行ってくれてて助かったよ。

「アレッ、めぐみ・・・どっか行ってるんですか」

「さあ・・・僕が来た時にはいらっしゃいませんでしたけど」

————フザけんな、アイツを呼び捨てにしていいのは俺だけだ。

12月29日

---

だから、今までの“さわやかな馴れ初め”なんてのはぜーんぶウソ！めぐみをこんな体にしたのも、何もかも俺！

言ったろ？・・・自分が蒔いた種だって。

それでも、この楽しかった時間もそろそろ終わりが近づいてきたみたい。『クスリ』が切れてきちまったらしくて、俺がバイトから帰って来た時さ？

何かうめき声みたいの出しながら、這いずり回って・・・

「まだ戻りたいの？」

ココから逃げようとしてたんだ。近づく俺に痩せ細った腕で、そこらの物を投げつけてくる。肩に手をかけて無理やり抱きついてやったら（笑）、必死になってもがいてた。今の俺を見ても、まだ怖いのか？まだ、信じてくれないのか？

———お前が、俺の知ってる鳴瀬めぐみなら・・・絶対に殺さないのに。

12月30日

---

今朝は包丁の冷たさで目が覚めた。何重にも丁寧にくくってある足で台所に行って、何重にも丁寧にくくってある両手で器用に包丁を持って・・・

俺を刺そうとしたんだな。

ま、メシも食おうとしない今のコイツの体力じゃ・・・蟻だって殺せないだろうけど、さすがに血は出てたよ。

「痛いよ・・・俺が悪かったよめぐみ・・・でも、こうするしかなかったんだ」

あのまま、あんな場所にいたら・・・絶対お前は過密スケジュールで“合法的に”殺される。俺はお前がテレビで見せた陰鬱な顔を知ってるんだよ。それがお前の本心だって分かってるから

「“鳥かご”を開けてやっただけじゃないか」

体を起こした俺の中に、めぐみは震えながら顔をうずめるようにもたれてきた。誘ったのは俺だけど、もう抵抗はしなかったんだ。中からじゃ、窓もドアも開かないこの部屋・・・観念したのかな。

—————いずれにせよ“泣き落とし”は上手くいったな。

1 2 月 3 1 日

---

「お前の夢、って・・・何だっけ」

デッカい会場でライブ？全国ツアー？・・・女優の真似事してドラマ？映画？

「・・・じゃあなりすと。あっちこっち・・・飛び回って、色んなトコロを・・・見て」

めぐみは、クスリの後遺症で喋りにくそうにしながらでも・・・ハッキリと自分の口からこう言ったんだ。  
何だ、ちゃんと覚えてたんじゃないか。

「今からでも、まだ遅くないよ」

そう言った俺に見せた涙は、どっちなんだろう。そのまま、めぐみはかすかな吐息を漏らして落ちるように眠っていた。

————— 夢見ようぜ、また・・・俺と一緒に。

1月1日

---

・・・初夢って、確か今日の夜に見るやつじゃなかったっけ？何か、ヤな感じだったなー。だってさ、朝だと思ってめぐみを起こそうとしたら

冷たくなって、硬くなってたんだ。

口元に顔を近づけても、息を感じない。体揺らしても、何の反応もないから・・・俺ってば、手と足の縄を解いてやってるのね。『ああ・・・死んだんだ』って納得してるっていうか、夢だからあんまり悲しくなかったのかな。

この日記もまた書かなきゃ。

———だって、目が覚めたら消えてるはずだもん。

1月4日

---

変だ。もう三日も経ってるのに、ぜんっぜん夢から覚めない。めぐみも、俺のそばでずっと“死んだまま”だし。正月に書いた日記だってそのまま残ってる。一体何がどうなっちまってるんだ？

・・・まさか

本当に、めぐみは死ん・・・？

めぐみ・・・起きてくれ。めぐみ・・・めぐ・・・



1月5日

---

神様も、間違える事ってあるんだな。俺が叶えてほしかったのは、めぐみの夢だった。なのにどうして

本当に、めぐみを人形なんかにしてくれたの

確かにあの時、『ホントに人形だったら』って言ったけど・・・そんなの俺の夢でも、願望でも何でもねえよ！

俺の願いがあるとしたら・・・魂を。この人形に、明るく笑ってた頃の鳴瀬の魂を宿らせてくれよ。

——こら、ネボスケめぐみ。いつまで寝てるんだ？・・・早く、早く起きろよ。

2月14日

---

たぶん、これで“人形遊び”も、日記も終わりかな。色々とニオイがきつくなってきた、周りの視線も痛いし。

バレるのも、時間の問題だから（笑）。

せっかく三つ目のバイト先から余った氷もらってきて、間に合わないや。

「なあ、めぐみ。狭いけど我慢してね。・・・もう少しの辛抱だからさ」

また、こうやってあの木箱が役に立つなんて思ってなかったけど・・・俺は

氷漬けの『箱入り人形』

に、最後のキスをした。



【1月某日、鳴瀬めぐみコミュニティ内におけるチャット履歴】

01:15 HN CMKRAC ログイン

しろしろ:>CMKRAC あ、初めまして

CMKRAC:>しろしろ どうも

めぐ LOVE:>CMKRAC とうとう、年越しちゃいましたねえ

CMKRAC:>めぐ LOVE そうですね

しろしろ:めぐっちは、ホントどこ行っちゃったんだろうね?

まもりゅ:僕のHNねー、実はめぐっちいにつけてもらったヤツなんですよ〜♪

めぐ LOVE:おっ、イイじゃんイイじゃん!!

しろしろ:>まもりゅ 裏山 ww あ、ひよっとして前のイベントの

まもりゅ:あの時、ステージに上がったのボクなんです!

めぐ LOVE:またそんなのしてほしいやね。『ただいまライブ』とかさ

しろしろ:それにしても捜索隊はどうしたんだ!ちゃんと仕事してんのか w

CMKRAC:あんなの名前だけですよ。

めぐ LOVE:あ、起きてたんだ www

まもりゅ:>CMKRAC まあ、彼らも頑張ってるんだとは思いますが

まもりゅ:ところで皆さん!もちろんフィギュアは持ってますよね?

めぐ LOVE:あったりまえでい!保存用と観賞用、遊ぶ用の計3個お買い上げ www

しろしろ:流石ですな。まあ、持ってないとモグリでは?

しろしろ:>CMKRAC ね?

めぐ LOVE:???

まもりゅ:また落ちたかなー

しろしろ:>CMKRAC だいじょーぶかー?

CMKRAC:あ、ゴメン w ええもちろん持ってますよ

CMKRAC:等身大のヤツを

めぐ LOVE:>CMKRAC え、とうしんだい?

しろしろ:>CMKRAC 読プレか何かかな

まもりゅ:>CMKRAC 限定品でしょ!?!いいな〜

めぐ LOVE:そんなのあったっけ???

しろしろ:???

まもりゅ:>CMKRAC くわしく教えてください!

めぐ LOVE:???

しろしろ:ウソだろ。モグリなんじゃね?

めぐ LOVE:>CMKRAC おい逃げるな卑怯だぞー

01:52 HN CMKRAC ログアウト

